



死生学の拡がり

□ オンライン開催

死生学研究所ホームページから
お申込みください

□ お申込み締切

2023年1月25日(水) 17時

□ お問い合わせ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□ 先着 100名様

□ 参加費 無料

お申込み



第7回連続講座

柘植あづみ

明治学院大学副学長
(つげあづみ) 社会学部教授

1月28日(土)

16:20-17:50

「いのちをつなげる」という観念をめぐる考察 ——親になることと生殖技術

■プロフィール

医療人類学、生命倫理学、ジェンダー論から、出生前検査、不妊治療・生殖補助技術、身体の資源化、健康とはなにか、年をとることなどについてのインタビュー調査等をおこない、医療技術が社会にもたらす課題と、社会がいかに技術の方向づけをしているかについて考えてきました。

■主要業績

単著『生殖技術と親になること—不妊治療と出生前検査がもたらす葛藤』2022年、みすず書房(2022年日本医学ジャーナリスト賞大賞受賞)、Tsuge,Azumi 2021 “Women’s decision-making and their experiences in the changing socio-technical system of prenatal testing in Japan,1980s to 2010s,” ICON: The Journal of the International Committee for the History of Technology,26(2);pp. 62-80 など。

内容紹介：

不妊治療として、精子や卵子を提供してもらい体外受精をするのを認める法律ができました。現在、この技術を誰が使えるのか、生まれた子どもが精子や卵子の提供者を知ることができるのかが議論されています。一方、生まれてくる子の遺伝的な状態を調べる検査(出生前検査)が、簡単かつ安全になり、検査を受ける人が増えています。検査で病気がわかって治療できないことが多く、その子どもをあきらめる人も少なくありません。このような時代に「親になる」とはどういうことか、「いのちをつなげること」を望む人が医療技術に何を求めるのかをインタビュー結果から考えていきます。

Annual
of the Institute
for Life and Death Studies,

◆ Toyo Eiwa University

死生学年報

●スピリチュアルケアの可能性 2022

東洋英和女学院大学
死生学研究所編



LITHION

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2022

スピリチュアルケアの可能性

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます。

◆お問い合わせ先 東洋英和女学院大学 死生学研究所

shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp